



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

シリア：アレッポでの戦闘（7月31日時点）

主席研究員 中島 勇

アレッポでの戦闘は、7月20日頃から本格化し、反体制派は市内の一部を占拠した。市内の反体制勢力に対するシリア軍の本格的攻撃は28日から開始された。シリア軍は、アレッポ郊外から、市内の反体制派拠点到、砲撃や攻撃ヘリによる銃撃を加えている模様である。市内では、反体制派が拠点の拡大を狙い、まだ市内に残る政府軍・治安機関と戦闘しているようだ。31日時点では、反体制派は、市内の警察署2カ所を占拠したとしている。戦闘の映像はユーチューブなどで流れており、一部の現場の詳細映像はあるが、全体像はよくわからない。シリア軍も反体制派もかなりの兵員を投入しており、本格的な戦闘が長化する模様である。

7月29日の時点で、国連は、市民約20万人が避難したと推定している。（アレッポ市の人口は約200万人であり、国連の推定が正しい場合、住民の9割は市内に残留していることになる）。シリア軍は、男性が市街地から出ることを制限しているとの報道もある。すでに食料、ガスなど生活物資の不足が報道されている。100万人以上の市民が残留する市内で、本格的な戦闘が発生、長期間継続した場合、「アレッポの戦い」は、シリア国内だけでなく、国際的にも大きな波紋を起こすだろう。

7月に入り、首都ダマスカスや、第二の都市アレッポでの戦闘が本格化した。31日付の米国ワシントン・ポスト紙は、シリア軍が主要都市（ハマ、ダマスカス、アレッポ）などに兵力を投入した結果として、地方の掌握能力が低下しており、地方におけるアサド政権の力は以外ともろかったことが明らかになりつつあると報告している。7月中、反体制派は、イラク、トルコ、ヨルダンとの国境事務所攻撃を激化させ、一部事務所を占拠している。

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799